

福岡市総合計画審議会

都市の成長部会

会議録

日時 令和6年5月23日(木) 10時00分

場所 TKPエルガーラホール7階 中ホール

出席者（五十音順、敬称略）

石丸 修平

金谷 明倫(代理出席 山口)

黒瀬 武史

高木 智代

徳永 美紗

古川 清文

水木 祐一

鬼塚 昌宏

木村てつあき

坂井 猛

辰巳 浩

中村 弘峰

星野 幸代

森川 春菜

貝和 慧美

久保 文一

調 崇史

田中たかし

林田 茉優

松岡 恭子

福岡市総合計画審議会 都市の成長部会

〔令和6年5月23日（木）〕

開 会

1 開会

○事務局（高橋） それでは、定刻となりましたので、ただいまより福岡市総合計画審議会都市の成長部会を開会いたします。私は事務局の福岡市総務企画局企画調整部長の高橋でございます。本日の進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日もYouTubeによるLive配信を行っております。

それではまず、お手元の資料を確認させていただきます。資料1として素案修正案をお配りしています。また、参考資料7として諮問書を追加しています。全てお手元にございますか。不足がある方、また、本日委員個別のファイルをお持ちでない方は事務局職員までお申出ください。本日の資料もお手元のファイルに綴じて事務局で保管することも可能でございます。また、後日郵送でお届けすることも可能ですので、詳しくは会議の最後に御案内いたします。

次に、今回初めて出席される委員を御紹介させていただきます。一言御挨拶いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

株式会社スピングラス・アーキテクト代表取締役の松岡委員でございます。

○松岡委員 建築家の松岡です。皆様おはようございます。よろしくお願いいたします。

○事務局（高橋） ありがとうございます。

なお、本日の委員の皆様のお出席状況は、お手元の配席表にて代えさせていただきます。

2 部会長、副部会長選任

○事務局（高橋） それでは、これより議事に入ります。

初めに、都市の成長部会の部会長と副部会長を選任いただきたいと思います。

福岡市総合計画審議会規則第10条第2項の規定により、部会長及び副部会長は委員の中から互選していただくこととなっております。よろしければ事務局から推薦させていただきますと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○事務局（高橋） それでは、事務局の案でございますが、部会長については、本市の都市計画審議会会長などを歴任され、建築計画、公共空間計画など、まちづくりに関わる幅広い分野で御見識、御経験をお持ちの坂井委員に、また副部会長には、福岡地域戦略推進協議会の事務局長として日頃より多くの企業や教育機関などと連携され、本市及び福岡都市圏の発展に取り組まれている石丸委員に、それぞれお願いしてはどうかと思いますが、い

かがでしょうか。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

- 事務局（高橋） ありがとうございます。それでは、部会長は坂井委員に、副部会長は石丸委員に就任いただきたいと思います。お二人は正面の席にお移りください。よろしくお願いいたします。

〔坂井部会長、石丸副部会長、正副部会長席へ移動〕

- 事務局（高橋） それでは、坂井部会長、石丸副部会長から御挨拶をお願いいたします。

- 坂井部会長 部会長を仰せつかりました坂井でございます。総合計画をつくるに当たってハードウェアは大変重要な皆様の活動の舞台ということで、そこを中心とした議論がこの部会で展開することになると思います。全体の会議でお話がありましたように、人口はまだ伸びており、もう少しピークが遅れるというようなことで、人口増加、その後訪れてくる人口の減少、両方をにらみながら難しい設定を幾つかしなきゃいけないだろうというふうに考えております。円滑な議事進行に皆様御協力をよろしくお願いいたします。

- 石丸副部会長 ただいま副部会長に選任をいただきました福岡地域戦略推進協議会の石丸でございます。私は、産学官連携ということで、様々な地域づくり、まちづくりにおける多様なステークホルダーの皆様と関わりを持って取組みをさせていただいておりますけれども、この10年ぐらい、福岡都市圏、いろんな形で関わらせていただく中で、特に社会経済情勢、世界の状況は大きく変革している状況かと思っております。今、坂井部会長からもお話ありましたように、人口減少のような問題も、福岡市はまだまだ人口が伸びているということはあるわけですが、生産年齢人口の問題ですとか周辺の人口、そういったことは着実に変化を遂げておりまして、そういった外部環境の変化などを捉えながら、向こう10年を見据えていく必要があるのではないかと考えております。微力ではありますが、坂井部会長をお支えしながら、会の円滑な進行に取り組ませていただきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

- 事務局（高橋） ありがとうございます。それでは、ここからは部会長に進行をお願いしたいと思います。坂井部会長、よろしくお願いいたします。

3 議題

- 坂井部会長 それでは、進行を務めさせていただきます。

本日の議題は分野別目標についてでございます。

事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（染井） ありがとうございます。総務企画局企画課長の染井でございます。よろしく願いいたします。

それでは、私から御説明をさせていただきます。

恐れ入ります、お手元の資料1、第10次福岡市基本計画 素案修正案の1ページを御覧ください。

本日の議題は分野別目標でございますが、初めに資料全体につきまして1点御説明をさせていただきます。

1ページを御覧いただきますと、朱書きでアンダーラインがついた記載があるかと思えますけれども、これは前回、4月25日の総会におきまして皆様からいただいた御意見を反映させていただいた部分につきまして、こうした表記をさせていただいております。本日時間限られておりますので、一つ一つの御説明は割愛させていただきますけれども、御不明な点などございましたら、後ほどお尋ねいただければと思います。

それでは、恐れ入ります、6ページを御覧ください。

前回の総会でも御説明いたしましたけれども、こちらの表に記載しておりますとおり、本計画では分野別目標としまして目標1から目標8までの八つの目標を掲げたいと考えております。このうち目標1から4は、生活の質に関する分野でございますので生活の質部会で、また、目標5から8につきましては、都市の成長に関する分野でございますので、こちらの都市の成長部会のほうで、それぞれ御審議をいただきたいと考えてございます。

11ページをお願いいたします。

ここからが本題でございますが、まず、分野別目標の構成をお示ししております。この後、目標1から目標8まで次ページ以降にございますけれども、それぞれにつきまして、11ページに記載の(1)から(4)で構成をしております。

まず、(1)めざす姿につきましては、本計画の目標年次であります2034年度に実現していることを目指す「都市の状態」を表すものでございます。

(2)市民意識につきましては、(1)のめざす姿をできるだけ市民の皆様にも分かりやすい言葉で表しまして、まちづくりに関する市民意識をアンケートで把握していきたいと考えているものでございます。こちらにつきましては次回以降の部会でまた指標等についての御審議をいただく場を予定してございますので、本日はその御紹介となっております。

次に、(3)現状と課題につきましては、めざす姿の実現に当たりまして、社会経済情勢や市民意識などを踏まえ、現状と課題を示すものでございます。

最後に、(4)施策につきましては、現状と課題を踏まえまして、めざす姿を実現するための取組みの方向性を表すものでございます。

20ページを御覧ください。

目標5 「磨かれた魅力に人々が集い、活力に満ちている」でございます。

まず、(1)めざす姿としまして、1つ目は、自然や歴史、文化芸術、食などの多彩な資源が磨き上げられるとともに、福岡都市圏や九州各都市などと連携し、魅力向上に向けた取

組みが行われ、一体的な集客力が高まっていること。

また二つ目は、都心に近い舞鶴公園・大濠公園一帯が、市民の憩いの場となるとともに、歴史や文化を生かした観光交流の拠点として機能し、都市の顔として、さらなる魅力の向上に重要な役割を果たしていること。

三つ目としまして、国内有数のMICE都市として、様々な国際会議が開催されるとともに、スポーツや音楽のイベントなどが盛んに開催されるエンターテインメント都市として広く認知されていること。

この三つを掲げさせていただいております。

(2)の市民意識につきましては、先ほど申し上げたとおりでございます。内容としては記載のとおりでございます。この内容で市民の皆様へのアンケートを行っていきたいと考えております。

次に、(3)現状と課題でございます。

まず一つ目は、福岡市は、第3次産業が約9割を占める産業構造でございます。交流人口の増加が地域経済の活性化につながるという特性がございます中で、陸・海・空のゲートウェイ機能や受入環境の充実、九州の自治体等と連携したプロモーションの実施などによりまして、集客力は向上しておりますが、地域経済のさらなる活性化に向けまして、付加価値の高い観光誘客が必要となっているということを記載しております。

二つ目は、マリンメッセ福岡B館の開館によりまして開催可能となった大型展示会など、新たなMICEは増加しておりますが、都市間競争は激しさを増しております。国際会議の開催件数や外国人参加者数の増を図りますとともに、MICE誘致を促進する拠点の形成を進めていく必要があるとしております。

三つ目は、ゲームや音楽などの多様なクリエイティブ関連産業が集積しますとともに、プロスポーツチームが本拠地を置くなど、魅力的なエンターテインメントの資源が豊富にある福岡市の強みを生かしまして、市民や来訪者など多くの人々を魅了するまちづくりを進め、認知度向上を図る必要があるとしております。

こうした現状と課題を踏まえまして、21ページの(4)施策につきましては、

- 5-1 観光資源の磨き上げと戦略的なプロモーションの推進、
 - 5-2 博多・福岡の歴史・文化を生かした観光振興、
 - 5-3 交流がビジネスを生むMICEの受入環境の形成、
 - 5-4 人々を魅了するエンターテインメント都市づくり
- の4つを掲げております。詳細については記載のとおりでございます。

22ページをお願いいたします。

目標6 「都市機能が充実し、多くの人や企業から選ばれている」でございます。

まず、(1)めざす姿としまして、1つ目は、都心部におきまして、先進的なオフィス、商業施設などの高度な都市機能が充実するとともに、水辺や緑、文化芸術、歴史などによりまして、彩りや潤い、賑わいがあふれる魅力的な都市空間が形成されていること。

2つ目としまして、都市活力や市民生活の核となる市内の各拠点の特性に応じた都市機能が充実し、さらに各拠点が公共交通ネットワークによって繋がることで、多くの人や企業から選ばれるまちになっていること。

3つ目としまして、都市の成長を牽引する高付加価値なビジネスの集積などにより、国内外の人材にとって仕事の選択肢が充実し、「夢が叶うまち」「自己実現できるまち」となっているという3つを掲げてございます。

(2)市民意識につきましては、記載のとおりでございます。

(3)現状と課題でございます。

まず一つ目としまして、国全体で経済成長が停滞する中で、福岡市のみならず福岡都市圏、九州全体が活力を維持し、成長を遂げていくためには、九州・アジアのゲートウェイである都心部の機能強化が重要であり、耐震性が高い先進的なビルへの建て替えなど、国際競争力が高いビジネス環境を創出しますとともに、多彩な魅力がある高質な都市空間を形成していく必要があるとしてございます。

二つ目としまして、シーサイドももちやアイランドシティ、九州大学伊都キャンパス、九州大学箱崎キャンパス跡地などの拠点におきまして、高度な都市機能を集積するとともに、地域の個性や強みを生かし、福岡市の成長を支えるまちづくりを進める必要があるということを記載しております。

三つ目としまして、交通インフラは、市民生活と都市の成長を支える重要な基盤であり、七隈線の延伸や都心循環BRTの導入、幹線道路の整備などを着実に進めてまいりましたが、交通渋滞への対応、各拠点等における交通利便性の向上など、引き続き、様々な課題に対応していく必要があるとしております。

四つ目としまして、理系人材をはじめ、次代を担う若者が東京圏などへ流出しておりますので、活躍できる場の創出が必要であり、本社機能や成長分野の企業、グローバル企業の立地を促進しまして、高付加価値なビジネスの集積につなげ、雇用を創出する必要があるとしてございます。

こうした現状と課題を踏まえまして、23ページの(4)施策につきましては、まず、

- 6-1 都市活力を牽引する都心部の機能強化と魅力向上、
- 6-2 様々な都市機能が集積した魅力・活力創造拠点づくり、
- 6-3 公共交通を主軸とした総合交通体系の構築、
- 6-4 成長分野の企業や本社機能の立地の促進 の4つを掲げております。

24ページを御覧ください。

目標7 「チャレンジ精神と新たな価値の創造により、地域経済が活性化している」で
ございます。

まず、(1)めざす姿でございます。

一つ目は、地場中小企業において、多様な人々がいきいきと働き、特徴ある製品やサービスが生み出されるとともに、農水産物の消費拡大やブランド化が進むなど、様々な産業

で競争力が高まり、地域経済が活性化していることを掲げております。

二つ目は、スタートアップが互いに交流しながら成長し、新たな価値を生み出すなど、チャレンジする人材が活躍しやすいまちになっていること。

また三つ目は、チャレンジ精神のある多様な人材や企業が国内外から集積するとともに、産学官民の連携が進み、様々な社会課題を解決する先進都市になっているということを掲げております。

(2)の市民意識につきましては、記載のとおりでございます。

(3)現状と課題でございます。

一つ目は、地域経済の活性化のためには、市内事業所の9割以上を占めます地場中小企業の振興が不可欠でございますが、原油・原材料価格の高騰などの社会経済情勢の変化ですとか、慢性的な人手不足、事業の後継者不足など、中小企業は様々な経営課題を抱えております。また、福岡市固有の歴史や文化を継承してきた伝統産業におきましては、担い手の減少・高齢化が深刻化しているということを記載してございます。ここは冒頭でも御説明しましたとおり、朱書きアンダーラインを引いておりますけれども、前回の総会でいただいた御意見を盛り込んだ部分となっております。

二つ目は、農林水産業従事者の高齢化や担い手不足などによりまして、農地が減少し、荒廃森林が増加するとともに、不安定な海外情勢の影響などを受け、生産資材、燃油価格が高騰するなど、農林水産業の経営は厳しい状況にあるとしております。

三つ目は、2012年に「スタートアップ都市ふくおか」を宣言して以来、創業の裾野は着実に広がっておりますが、その中で福岡発のスタートアップのさらなる成長や様々な社会課題の解決に向けた取組への環境づくりが求められているとしております。

四つ目は、大学などの高度な教育・研究機能が集積しております福岡市の強みを生かして、新たな製品やサービスを創出するため、産学官民の連携や知識創造型産業のさらなる集積を促進していく必要があるとしております。

こうした現状と課題を踏まえまして25ページの(4)施策でございますが、まず、

- 7-1 地場中小企業の競争力強化などによる地域経済の活性化、
- 7-2 農林水産業とその関連ビジネスの振興、
- 7-3 新たな価値の創造とスタートアップ都市づくり、
- 7-4 産学官民が連携した知識創造型産業などの振興 の4つを掲げております。

26ページをお願いいたします。

こちらは最後になりますけれども、目標8 「アジアのモデル都市として世界とつながり、国際的な存在感がある」でございます。

(1)めざす姿でございます。

まず一つ目は、港湾、空港機能が充実し、福岡都市圏、さらには九州全体の国際交流のゲートウェイとして機能していること。

二つ目は、多くの地場企業が積極的に海外展開するとともに、グローバル人材やその家

族にも住みやすいまちづくりが進むことで、海外の企業が数多く立地し、様々なビジネス交流を通して、地域の経済が活性化していること。

三つ目としまして、少子高齢化や環境問題に先進的に取り組んできた知識と経験を生かし、世界中で深刻化する社会課題の解決に貢献しますとともに、様々な国際会議の開催都市としまして、国際社会において存在感を発揮していることの3つを掲げております。

(2)の市民意識につきましては、記載のとおりでございます。

(3)現状と課題につきましては、一つ目は、アイランドシティ整備事業や福岡空港の滑走路増設、クルーズ船の受入れ環境整備などによりまして、人流・物流の機能強化は着実に進んでおり、アジア諸都市との近接性や充実したネットワークを生かし、国際競争力をさらに高めるため、港湾空港機能を充実・強化していく必要があるとしております。

二つ目は、人口減少社会を迎え、国内市場の拡大が見込みにくい中で、将来にわたり地域経済を活性化していくためには、地場企業や福岡発スタートアップの海外展開や外国企業の立地などを促進しますとともに、医療や教育をはじめ、グローバル人材にも住みやすい環境づくりを行う必要があるとしております。

三つ目でございますが、日本が世界で最初に直面している超高齢社会ですとか、世界共通の課題であります環境問題など、様々な都市問題や社会課題につきまして、福岡市の知識と経験を生かし、国際社会に貢献していく必要があるということを記載してございます。

こうした現状と課題を踏まえまして、27ページの(4)施策でございますが、

- 8-1 成長を牽引する物流・人流のゲートウェイづくり、
- 8-2 国際的なビジネス交流の促進とグローバル人材にも住みやすいまちづくり、
- 8-3 国際貢献・国際協力の推進と国際会議の誘致 の3つを掲げてございます。

説明は以上でございます。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○坂井部会長 ありがとうございます。

今日の審議ですけれども、この場で内容を固めるというものではございませんで、委員の皆様には不足している視点、表現など、率直な御意見をいただきたいと考えております。八つありますが、主に5から8まで、ページ数でいうと、20ページから27ページについての御審議をいただきたいというのが趣旨でございます。1から4もありますけれども、5月29日に生活の質部会のほうで審議されるということで、必要があれば当部会で御意見いただいても構わないということでございます。

では、時間には限りございますが、御意見を簡潔にいただければと思います。御意見のある方は挙手をお願いいたします。いかがでしょうか。

ちょっと私から、目標の5のお話を少しさせていただきます。

細かいことに及びますけれども、21ページの5-1ですが、「観光資源の磨き上げと戦略的なプロモーションの推進」というところから始まっております。この中の1行目の「自然環境や歴史ある街並み」、これをもう少し詳しくお話を展開したほうが分かりやす

くなるかなということで、歴史資源を生かした魅力ある都市景観、そういった都市景観と言ってしまったほうが、その後の文化芸術とか、そういうワードにつながるのではないかなというのが1点でございます。

それから、5-2ですけれども、「博多・福岡の歴史・文化を生かした観光振興」、これも関連いたしますが、2行目に「博多」においては、神社仏閣を生かした魅力ある都市景観の形成」、ここで都市景観が出てきますけれども、こちらはむしろ歴史的な街並みの形成とか、そういうふうなワードに、少し都市景観と、歴史的街並みのワードの使い方というのを調整していただければと思った次第でございます。細かいことで申し訳ありません。

それからもう一つは、23ページ、次の都市機能の話ですけれども、ウォーターフロントというワードが出ています。これは福岡では博多、天神に次ぐ第3の大事な場所としてウォーターフロントという言い方を前からしているわけですが、少し説明をしていただいたほうが、一般の方、これを読むのは福岡市の方が中心ですけれども、外から見るときにウォーターフロントといたら、普通は水辺の訳ですので、少し詳しい説明をどこかでしていただければと思った次第です。

すみません。細かいことから始まりましたが、どこからでも結構でございます。よろしく願いいたします。どうぞ。

○委員 本日はオンラインで申し訳ありません。私のほうから3点ほど意見を申し上げたいと思います。

まず、1点目なんですけれども、ページで言うと、27ページ、目標8のアジアのモデル都市として世界とつながるといところでございます。こちらに関して、実は都市交通協議会のほうでも議論をしているところなんですけれども、やはり現状を見ると、国際線のターミナル、それから、ウォーターフロント地区、この2つへの公共交通が若干ほかと比べて弱いというところがあるのかなと思っております。ですので、総合計画の中ではこのような位置づけでもいいのかもしれませんが、ゲートウェイそのものを強化するということもそうですし、ゲートウェイとなる、特に国際線のターミナルやウォーターフロント地区への公共交通のアクセスというものを強化していくというのを一つ位置づけてはいかかというように思っております。これがまず1点目でございます。

2点目は、少し次のページで、28ページ辺りとも関係するんですが、前回の総会で既存集落の活性化だったり、調整区域の話も入っております。これについては賛同するところなんですけど、私の危機感としては、市街化区域の中の1970年代、80年代あたりに造られてきた住宅団地、それから、戸建ての住宅地の再生にも力を入れていくべきなのではないかというように思っております。人口の予測を見ると、今日詳しくは御説明しませんが、南区であったり、早良区、それから、西区の南部のほうの高度成長期に開発された住宅地というのが大分高齢化も進んできております。一方で、若い方の住宅難というか、なかなか

住宅が買えないというところもあるので、そういった団地の再生だったり、住宅地の再生を通して、若い方にも福岡市内でぜひ住宅にアクセスできる環境をつくっていく必要があるのかなと思いますので、どこに入れるのかはまた事務局で考えていただければと思いますけれども、市街化区域の中でも再生が必要なエリアがあるというところが2点目でございます。

それから3点目なんですけれども、こちらは幾つかのところに出てくるんですが、例えばで申し上げますと、34ページ最後の(4)の「空間構成目標の実現に向けた交通体系の方向性」というところで、公共交通機関相互の連携や交通結節機能の強化を書きいただいています。これは非常に賛同するところでございます。現在、西新・藤崎の辺りだったり、それから、東部の拠点だったりということが、交通結節機能の強化も書いてあるんですが、実際には七隈線の開業もありまして地域拠点と言われるようなエリア、例えば、野芥ですとか橋本なんか当たると思うんですけれども、そういう少し南部のエリアでも交通結節機能を強化すべきエリアが出てきているのではないかと思います。実はこのエリアというのは先ほど申し上げた高度成長期に造られた住宅地の近くでもございますので、ぜひ駅周辺の交通結節機能を郊外においても強化していただいて、できれば市街地のさらなる高密度の利用、特に今あまり密度が上がっていない鉄道駅周辺の個別の利用というのを促していく方向が持続可能性にもつながるのではないかと思います。

以上3点でございます。

○坂井部会長 ありがとうございます。

今までのところで事務局から何かコメントございますか。よろしいですか。

すみません。委員、手を挙げていただいております。よろしく申し上げます。

○委員 お世話になります。

まず、前回の会議で出されたいろんな意見について赤字で手直しいただいたと思うんですけど、幅広い意見を書き込んでいただいたのかなというふうに感じてまして、大変御苦労さまでした。

私が気になったのが、アジアのゲートウェイというような書き方が複数の目標にまたがって、例えば、22ページ、目標6、それから、28ページの空間目標のところの一番下、都心部にもゲートウェイという表記があるんですけど、目標6の22ページ、都市機能が充実して、多くの人や企業から選ばれているという中での現状と課題のところ、1番目に「ゲートウェイである都心部の機能強化が重要であり」とあるんですけど、ここにやはり少なくとも空港のことは書くべきなんだろうと思っています。今、福岡空港に関する記載を見ると、26ページの目標8の、要は国際的なつながりとか、社会とのつながり、国際的な存在感のところには書いてあるんですけど、むしろ福岡空港の国内向けの競争力というのは、今、皆さん感じてあるような都心部へのアクセスの圧倒的な良さというのはあると

思うんです。そういった意味での利便性の改善とか強化みたいなのは、必ず都市機能が充実するという視点でも触れておくべきなんじゃないのかなと思っております。

なので、もう少しゲートウェイである都心部機能のという目標6の記述のところに、そのゲートそのものについて触れていただくということの視点をぜひお願いしたいなという1点だけ今日申し上げておきたいと思います。よろしくお願いします。

○坂井部会長 ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。委員、お願いします。

○委員 まず、21ページ、施策の5-2の「博多・福岡の歴史・文化を生かした観光振興」の最後のところ、「市民の憩いと集客交流の拠点づくりに取り組みます」ということなんですけど、歴史・文化を生かした観光振興は大変素晴らしいと思うんですけども、一方、例えば、博多コネクティッドとか天神ビッグバンの裏目というか、都心部の固定資産税が上がり過ぎて、ここに住めないというような方々、特に博多部の街があります。そういう中で、例えば、祭りも福岡の観光振興にはすごく取り組んでいると思うんですけども、その祭り自体が成り立っていかなくなっているという現状もありますので、その辺も考えていただきたい。

もう一つは27ページの施策8-1「成長を牽引する物流・人流ゲートウェイづくり」なんですけど、博多港と福岡空港についてということなんですけれども、「機能の充実・強化や利便性の向上」、「都心部や背後圏との連携強化など」ということがあるんですけど、福岡空港についての機能の充実・強化や利便性というのを詳しく説明をいただきたいなと思います。

以上です。

○坂井部会長 この件は事務局からよろしいですかね。空港のことについてここに記述されている機能の充実・強化、利便性の向上、少し具体的に教えてほしいということですが。

○事務局（染井） 承知しました。では、港湾空港局のほうからお願いいたします。

○事務局（釘宮） 港湾空港局総務部長の釘宮でございます。

今、委員から御質問ありました福岡空港の機能の充実・強化につきましては、国の管理する空港で、空港運営会社、民間が今管理しているところでございまして、今後、F I A C、民間会社が、国際線、国内線、そういったターミナル機能の充実・強化をするものにつきまして、福岡市としましてもいろいろ御意見を言わせていただいて、協力できるものは協力していきたいと考えております。

利便性の向上につきましても、空港の混雑の緩和とか、そういったものにつきまして、

国、そして、運営会社を中心に今していただいているところですが、それにつきましても福岡市としてコミットできるものにつきましてはしていきたいと考えておるところでございます。

以上でございます。

○坂井部会長 いかがですか。

○委員 何かぼやっとした表現で分かりにくかったので、これはまた個別にというか、いろいろ詳しく。ここではあまり議論し過ぎると、ほかの皆さんに迷惑かかるので、個別にしたいと思います。

以上です。

○坂井部会長 お願いします。ありがとうございました。委員、お願いします。

○委員 三つ申し上げたいと思います。

総会に出られなかったので、今期の参加は今日が初めてなんですが、2期前の、つまり、20年前のこの委員会の委員にも就任させていただいておりました。今回この表現を見ながらまず一つ目で申し上げたいのは、構想があって計画があって、そして指標をつくっていくという中で、どうしても資料の構成が大きなものから小さなものへ細分化されていくというのが否めません。この資料もやっぱりそういうふうになっていて、目標が5、6、7、8とあって、その中がまた細かく分かれてさらに云々となっています。しかしながら実は、細かく語った後に全体を俯瞰し直し、この都市部会での5、6、7、8の間で共通するものをもう一回編集し直して、そこに流れる共通のものを取り上げていくということが、非常に大切です。例えば、たくさんの方が集うとか国際化というようなことと、伝統産業を大切に守っていくっていうことは、違うことではなくて、やはり多くの方が集ってくださるからこそ、福岡の地域性に光が当たるとか、いろいろな方が来てくださるからこそ、新しいチャレンジが生まれやすい環境が大切だとか相乗効果が生まれるわけです。そういう横のつながりが非常に重要なので、この5、6、7、8の目標を細かく分類しつつも、最後にまた横断的視野に回帰することが大事なんじゃないかと思います。これがまず一つ目です。

二つ目は、20年前の会議にも出ていた経験から、計画の中に常に言われていることと新しく言われていることがあると思います。10年計画には、次の10年で特に注力すべきことと恒常的に頑張っていかなければいけないことがあるのではないかと思います。そのところを少し力を分けながら、新しく起こっていることにはやはり新しいやり方で取り組むんだというようなスピリットが計画に浮かび上がることが大切に思います。新旧織り交ぜた中で新しいものへの取組みは新しい形でと、これが2つ目でございます。

三つ目は、今の具体的な話の一つになると思うんですけども、目標6、22ページですが、「都市機能が充実し」というところがございます。今までは天神ビッグバンや博多コネクティッドという中心地区の機能更新、成長が話題の中心でしたけれども、折しも次の10年は九大跡地が、約50ヘクタールもの土地がまちづくりの拠点になっていくタイミングです。日本各地においても、このような大きな敷地が新しい場所として市の中心地区に生まれるというのは現在全く例がないことです。ここは大学の移転により生まれた土地です。だからこそ、元あった大学と周辺の住民と間には100年間に培われた非常に深い関係性があります。そこにこれから新しいまちができていくわけですが、いかに過去の関係性を大切にしながら新しいまちづくりをやっていくのかが問われています。何が建つか、どんなハードができるかということだけではなくて、進め方、プロセス論も注目される時代です。もちろん今度優先交渉権を取られたチームには優秀な8社が並んでおられますので、非常にいいものが進んでいくと期待していますが、さらに言えば、福岡市民がそこに自分事として参画していける、そういう仕組みが望ましいのではないかと思います。やはり世界的に見ても、成熟した国家はハードの整備はほぼほぼ終わって、むしろ仕組みをつくる時代です。人が環境をつくり、人と人がつながって、そして持続的な成長をしていくという仕組みづくりに、九大跡地はまさにそのうってつけの実験場、または大切な福岡の都市基盤の一つになってくると思います。そのことについての記載がこの資料には薄いと思います。

ですので、例えば、目標6の(2)市民意識のところ、二つの項目がございますけれども、自分ごとではなく誰かがやっているとか、第三者的な見方担っていると感じます。ここは、やっぱり市民自身が参画している、市民がまちづくりの主人公になっていると実感できているという項目が新しく入り、その対象として九州大学跡地が大きくここに取り上げられるのが良いと思います。これは二つ目に申し上げました、新しく発生する案件には新しい取組み方法で、ということへの思いでもございます。

すみません。長くなりました。

○坂井部会長 ありがとうございます。事務局から何かありますか。いいですか。どうぞ。

○事務局（染井） 恐れ入ります。箱崎の部分ですけれども、御指摘ありがとうございます。どこに盛り込んでいくかということも含めてまた今後検討させていただきたいと思っておりますけれども、例えば、次回以降、28ページ以降に出てまいります空間構成目標等の中にも、箱崎についても魅力・活力創造拠点ということで位置づけてございますが、その辺りの表現の見直しなどということも含めて、どこにどういう反映ができるか、持ち帰らせていただきたいと思っております。ありがとうございます。

○委員 すみません。重ねて申し上げますが、この後どんどん各論になっていって、次は区のまちづくりと、どんどん細かくなっていくわけなんですけど、ぜひ先ほどお話しした四つ

をもう一回まとめ直し横断的に語るページも加えることの検討をお願いしたいと思います。

○坂井部会長 よろしいでしょうかね。

ほかにいかがでしょうか。はいどうぞ。

○委員 目標7の施策で、7-1地場中小企業の話と7-3スタートアップのところなんです。スタートアップ都市づくりというのに福岡市が取り組みだして10年たつと思うんですが、いろいろな創意工夫、御苦労されながら、一つの形にはなっているんだろうなと思うんですが、次の10年に向けて何をやるのか、今までの延長線上だけでいいのかというのは、私はちょっと疑問に思っております。地場中小企業の7-1を見ると、従来やっているような支援を粛々とやられるのかなというふうな印象を抱くような文章なんです。やはりせっかく10年、今まで国内外からいろんなスタートアップ企業さんが福岡市に関心を示してこられていると思うので、そういったところと、市の9割以上を占める中小企業さんとのマッチング、また、それから付随する第2創業みたいなところを真剣に取り組まないといけないんじゃないかなと思っておりますし、私はできると思っています。そういうのをもう少し意識化されるような文章がどこかに表現できないかなと思っております。以上です。

○坂井部会長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。どうぞ、委員。

○委員 都市の成長に関しては分野別目標が4つある。目標5は観光やMICEのテーマ、目標6が都市インフラのテーマ、目標7は起業、企業経済、地域産業のテーマ、目標8が国際化のテーマと解釈しました。都市の成長という観点で網羅的に設定されたテーマだと思います。

この文章を読む人もたくさんいると思いますので、個々の目標に関して、これは観光の目標、これは企業経済の目標というのがすぐにわかるように、具体的なキーワードを盛り込むように工夫されますと、目標の意味するところがブラッシュアップされると思います。

特に目標5は、観光やMICEに関する目標であるとは、すぐに思い当たらないように感じますので、工夫の余地があるのではと思いました。

続いて、各目標の中身についてコメントします。

目標6について。都市インフラ整備では、すでに天神ビッグバンや博多コネクティッドのプロジェクトが始まっている。中期目標の中では、それらが所期の目標を達成されているかどうか、が大事だと思います。天神ビッグバンとか博多コネクティッドのキーワードを入れるのが良いと思います。

それから、災害、地震もあるかもしれない。福岡市自身のBCP対策も重要ですし、加えて、仮に他の都市が災害に遭ったとき、福岡市がそのバックアップ拠点になる、そういう役割

も担えるんじゃないかと思います。BCPに関する施策を加えても良いと思いました。

それから、目標6(3)現状と課題の④理系人材の県外流出の対策は、私の解釈だと、目標7のほうの地域経済とか企業経済の課題だと認識しています。今、九州は半導体産業の復活が大きなテーマです。半導体製造の回路設計などの上流部分、高い付加価値を生み出す企業が地元であって、理系の人たちがそこで働いているというのは、理想的な姿だと思います。

目標7に関して。先ほどスタートアップの話もありましたけれども、確かに起業するという「スタート」は既に実績があり活発だと認識していますので、その後の「スケールアップ」のところでどういうふう実現できるか、というのが大きなテーマだと思います。

最後に存在感ある国際都市になるという目標8に関して。観光関連のホテルやMICE施設は整備されてきたと思いますので、次には高い経済的な付加価値をもたらす外国人の方が定住を希望するようなインフラ整備。具体的には、学校、住宅。仕事もよし、住んでもよし、という評価を得られるような生活関連インフラやそうしたサービスを提供するための人材育成も必要になると思います。

○坂井部会長 ありがとうございます。

御指摘の入替え等も含めて御検討をお願いいたします。

オンラインの委員から手が挙がっていたようですが、お願いいたします。

○委員 ありがとうございます。

各目標に対して、一、二点ずつコメントを申し上げます。

まず、目標5に関してなんですけれども、(4)施策のところの5-3「交流がビジネスを生むMICE受入環境の形成」というものがあります。福岡市のMICEの推進の計画でも委員として関わらせていただいたんですけれども、やはり持続可能性の観点から、地域、文化、環境などに配慮した持続可能なMICEの施設とホテル・利便施設が機能的・一体的に配置されるMICE拠点の形成を進めますというような形で、ぜひ総合計画のほうにもそういった持続可能性や、地域、文化、市民にきちんと配慮したMICEの環境設備などを整えていきますというような形にさせていただくといいんじゃないかなと思いました。

次に、目標6ですが、こちらのまず一つ、現状と課題の①の部分で、耐震性が高い先進的なビルへの建て替えなどが必要であると言われていたんですが、こちらは(4)の施策の中に入れていくものになると思いますが、ぜひその建て替えなどに関してはグリーンビルディング、環境に配慮した建設というものを検討いただくといいんじゃないかなと思います。というのも、海外の企業を誘致していて、グローバルな都市にしていくというところの目標の中にあると思いますので、そういった海外の企業を呼び込もうと思えば、やはり皆さん海外の企業はどのようなオフィスで仕事ができるのかというところを気にすると思うんですね。やっぱり皆さん海外の投資家の方々の視線を気にされていますので、そういったところで働くかということも考慮、選ぶときにですね、選択するクライテリア、

基準になっていくのかなと思います。

あと、同じ目標6の中の6-1「都市活力を牽引する都市部の機能強化と魅力向上」というところで、一番最後の行に、「賑わいがある魅力的なまちづくりを進めます」とありますが、ここでは都市機能の充実、多くの企業から選ばれている都市になるために魅力的なまちづくりを進めますという意味で書かれているかと思うんですが、やはりここでも市民や地域環境などに配慮した持続可能で魅力的なまちづくりを進めていくとうたっていた方がいいかなと思います。

次に、目標7の現状と課題の中で、地域経済の活性化をしていく必要がある、あとは高齢化、担い手不足、人手不足になっているという課題がある中で、それをどう変えていくかということなんです、外国人の方々の労働力というのもどうしても必要になるかなとは思っています。なので、そういった環境を整えていく、市としてどういう受入体制をつくっていくのかということもすごく重要なところだとは思っていますが、一つ、ヨーロッパのフランスの例で私が最近学んだことなんですけれども、女性の社会進出というのはヨーロッパのほうが日本よりも多分すごく早い段階であったのかなと思いますが、政府が行ったこととして、女性の方々に働いてもらいつつ、子どもをたくさん産んでもらうという意味で、結婚とかをしなくても1人の女性が子どもを育てられるようなサポートを国として行っていったことでヨーロッパの中でも出生率が高いと言われているというものを読みました。そういった取組みは少し時間がかかっていくものとは思っていますが、そういったことを市として取り組んでいって、ここにも入れ込んでいくというのも一つの手かなと思いました。

こちらの同じ目標7の中で、施策の7-2「農林水産業とその関連ビジネスの振興」というところがあります。

まず、農業の部分、「新鮮で安全な農水産物を市民に安定供給するため」というところがありますが、観光の視点から見ると、農業を推進していくため、あと、若い人たちに興味を持ってもらって継続的に続けていただくために、若い人たちが興味を持ってもらうようなビジネスにもつなげていかなきゃいけないと思いますので、農業ですと、ワーキングという農家の方々がホストとなって外国人の若手の方々を取り入れて、それを観光ビジネスにつなげていくこととかもありますし、宿に泊めて日本的な農業の体験をするだけではなくて、一つアメリカの例で、「ビッグ・リトル・ファーム」というドキュメンタリーの映画があるんですけれども、それは生物多様性を考慮して、一つの大きなファームにいろんな植物とか動物とかを取り入れて、持続的なエコシステムをつくった一つの良い例としてドキュメンタリーになっている映画があるんですけれども、それをぜひ一度見ていただいて、ビジネスに結局つながるんですね。若い人たちにも興味を持っていただけますし、社会勉強とか、あとは視察という形でいろんな国からアメリカのファームには今来られたりしているんですね。なので、そういったことを事例として、福岡市の中でそういったことができるかどうかちょっと分からないんですけれども、そういったことも考え

ながら、ここの農林水産業のビジネスの振興というものを具体的に書いていくといいんじゃないかなと思いました。

あと、この水産物の部分は、ぜひ環境に配慮した水産物であるというところもどこかの項目へ言葉として入れていただくといいんじゃないかなと思います。

最後の目標8ですね。目標8の施策8-3「国際貢献・国際協力の推進と国際会議の誘致」、ここの二行目のところで「福岡市の持続可能なまちづくりを世界に広め」ということで、広めていくためにはやはり海外で何が起きているかということを中心に理解していくことが必要だと思います。現在すごく議論が活発によくあると思うのは、EUグリーンクレーム・ダイレクティブですね。日本語だと、EU環境訴求指令案というものになると思うんですけども、簡単にいうと、消費者に対してグリーンウォッシュのような掲示をしていかないことというような法令案が今ずっと議論されていて、観光だけにかかわらずいろんな産業界で消費者にも関連してくるものになると思います。やはりアジアにいくと、そこまでその議論はあんまり取り沙汰されていないんですけども、ヨーロッパとかだとすごく活発にされていて、アジアにまだそういったものは来ないというふうに感じてしまいがちなんですが、10年計画なので、早い段階からそういった海外の国際的なルールとか、そういったこともきちんと検討しながら、福岡市の持続可能なまちづくりというものを進めていくというような内容にうまく、どういう言葉を入れればいいのか今分からないんですけども、そういったところも入れていただくといいんじゃないかなと思いました。

すみません、長くなりまして、以上となります。

○坂井部会長 ありがとうございます。

委員、お願いします。

○委員 よろしくをお願いします。

目標5のめざす姿のところ、文化芸術とか、そういったところをいろいろ書いていただいております。具体的にマリンメッセとかいろいろなところ書いてある中で、美術館と博物館という文言も具体的に出したほうがいいのではなからうかと思っております。美術館、博物館というのは市民にとっても分かりやすく、ほかの県外、あと、国内外の人にとっても分かりやすい、まちの顔になるものですので、そこを充実させていくのが一番市民に対してもアピールしやすいところだと思います。

福岡市美術館のリニューアルとか継続的に行政のほうですばらしい改革を続けていただいているので、それをこの後の10年も手を休めずに続けていただきたいと思います。美術館、博物館がこの世界に存在している理由というのが、意外と美術関係ではない人はあんまり御存知ない方も多いんですけども、美術館、博物館の一番の大事な仕事は作品を集めることです。コレクションし続けていく、それがその都市の歴史だったり、人々の暮らしを保存

していく、それがこの都市の魅力なんですよ、歴史なんですよ、力の大きさなんですよということをアピールするのが美術館のコレクションと呼ばれています。にもかかわらずというか、日本の美術館、博物館の作品購入の年間の予算というのは最近どんどん減少傾向にありまして、ひどいところでは年間数百万円、多くても1億円程度。海外の美術館になると、もっとその100倍、数千倍の購入予算というのが充てられていて、その作品をコレクションすることによって自分たちのまちの力を示していき、観光客を誘致し、富裕層のコミュニティを築き上げていって、都市の存在感を増していくという使われ方をしている、その使い方を日本の美術館ももう少し利用することができれば、受動的にというか、自動的にというか、美術館のコレクションが働くことによっていろんな人脈、人材がまちに集まってくる可能性が高まります。

ただ、その予算をアップするというのは非常に難しい話なので、海外でよく取られている方法は、資産家とか、個人的に収集したコレクションの寄贈を受けると、その寄贈を受けた場合に所得税からその評価額を一定数控除する。そのことによってコレクターのインセンティブを上げて、コレクションが自動的に集まっていく仕組みをつくり、その人の名前が何々コレクションというふうに残り、そのまちに貢献した人として評価され、美術館もコレクションが充実し、ウィン・ウィンの形をつくっていますので、そういうことが税のことも関わってくるので、1自治体だけでできる話ではないかもしれませんが、美術館のコレクションを充実させるという大きい目標みたいなものを少しこの中に盛り込んでおかないと、美術館がまちにある意味があんまりなくなってしまうということが一つ。

あと、最後もう一つなんですけれども、アジアのモデル都市としての世界とのつながり、国際的な存在感のところで、ここも文化芸術の点なんですけど、博多港と福岡空港の機能の充実のところ、福岡市はAFAP、アジア福岡アートフェアというのを開催されていて、近年、その規模がどんどん拡大して東京アートフェアに次ぐ大きさになったとお聞きしています。それは大変喜ばしいことで、そこにより加速させるというか、どうせやるのであれば、今少し片手落ちのような状態になっているかなと思うのが、フリーポートという考え方ですね。福岡市でアートフェアをすることによって、福岡市に住んでいる人がそのアートを買に行くというのは実際一部だと思います。アートフェアを開催することによって、やはり世界中からアートが好きな人がそのまちに集まって、そのまちがアートに友好的な考え方を示しているまちだということを世界にアピールするためにアートフェアというのはやるもので、そこには日本の美術作品だけではなく、世界中からアートを集めていくことが求められていると思うんです。そういうときに、1回海外から福岡市に作品を入れるときに関税がどうしてもかかってしまうので、それを一時的に免除して、海外から来たお客様がそこで買物したら、そのまま持って帰って自国で関税を払うと。なので、二重に関税がかかることを防いだりするためにフリーポートという考え方があると思います。限定的にだと思いますが、そういうことも世界のトレンドでは多く行われているので、何かそういう機能の充実・強化、利便性のところにも含まれているかもしれませんが、何かそう

いうところも一つ検討されれば、ないし議事録に残ればいいかなと思います。

以上です。ありがとうございます。

○坂井部会長 ありがとうございます。

続きまして、委員、お願いします。

○委員 目標8について1点だけ気になるので伺いたいんですが、この27ページにある(4)施策の中の8-2「国際的なビジネス交流」の云々ということの一番最後のほうに、「外国企業の誘致と世界で活躍するグローバル人材やその家族にも住みやすいまちづくりを一体的に推進します」と書いてあります。これはどこから来るかということ、三番目の現状と課題では、②の「医療や教育をはじめ、グローバル人材にも住みやすい環境づくりを行う必要があります」ということで必要性が求められている。それはどこから来るのかということ、(2)の市民意識、ここの下の段にある「「世界各国からの人から働きやすく、住みやすい場所として選ばれているまちづくり」が進んでいると思う市民の割合」ということで、ここは福岡市民のそう思っているという割合が来ていて、そこから広げていくと、選ばれなければならないという、ここに流れていくんですが、これはある意味、今現状でどこが駄目なのか、だから、外国の方々から選ばれているのかいないのかという数値から戻っていくほうが分かりやすいんじゃないかなと思うので、福岡市民の方が勝手に選ばれやすいまちですよねと思っているだけであったり、そういう数値が具体的でなくなる可能性があるので、その辺何かいい方法を考えていただければなということだけ指摘させていただきたいと思います。

以上です。

○坂井部会長 ありがとうございます。

委員お願いします。

○委員 24ページ、25ページの目標7についてです。

まずは先日、事業承継について意見を述べさせていただいて、今回反映いただきありがとうございます。今回は事業承継とまた別の視点で、若者であったり、産学官民の連携について意見を述べさせていただきたいと思います。

施策の7-1に地場中小企業の競争力強化の中で人材確保という話が出ていたり、7-4で産学官民の連携についてという意見が述べられているんですけども、その中でもう一つ施策にキーワードとしてもあってもいいのかなと思ったのが、アクティブラーニングといった言葉とかを取り入れてもいいのかなと思っていました。私が5年前、福岡大学生だったときに経済学部の中でベンチャー企業論という講義を受講していました、その中で企業さんと学生がタッグを組んで課題解決型のインターンシップを1年間通すという活動

しておりました。その活動があったおかげで、もちろんその参加されている企業さんの中にはマイナビ・リクナビさんが開催しているような大型の企業説明会に参加していないような規模の企業さんもその中に参画されていて、おかげで私も福岡にはこういう企業もあるんだということをたくさん知る機会も多くありました。そういった大学の中でいわゆるこの社会を生きる教材として学ぶ場がどんどん増えることで、より若者たちはまちづくりに関心を持つようになったり、地元の企業にどんな企業さんがあるのかを知る機会になって、それがまた出会いの場になって地元の企業に就職するといったことも、実際にベンチャー企業論で多くの事例としてあるんですけれども、やはりそのためには日頃の大学内の授業がただ教室内で行われるだけでなく、いかにこの社会と一緒にというところがあるのかというのは重要なのかなと思っていて、その方法が一つアクティブラーニングのかなと思っております。

そうすることで、また、大学に入る前の若者たちも、この大学に行けばより社会に出たときにつながる生きる学びを得られるんだということで、より魅力的かつ実践的な大学というのがどんどん福岡大学だけでなく、また、その福岡市内にもそういった大学は既にあるんですけれども、また、そういったゼミなどが増えていくのかなと思いますし、その出会いを通して、それが人材確保であったり、また、その大学内にあるその研究がよりこの社会に実際に生かされていくといった流れがつくられていくのではないかなと思って、アクティブラーニングについて意見を述べさせていただきます。

以上です。

○坂井部会長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

○委員 いろんなところで農業の話が出ているんですけれども、福岡市の農業というのはちょっと特殊と私は思っているんですけど、農業といいましても、皆さん想像してください。一つは、北海道や、例えば近くだったら熊本県みたいな広大な農地を持って、それで経営していく農家というのと、もう一つは、東京の近郊、例えば目黒とか西東京、江戸川区にある小さな、いわゆる都市型農業というのがあるんですよ。福岡市はそれが二つ存在してるんですよ。

だから、28ページの市街化調整区域とか、そういうエリアの中の農業を守るだけじゃなくて、市街化区域内の農業も守ってほしいと思います。

その中の市街化区域内の農業、例えば1時間に80ミリの大雨も、水田があったら簡易的なダムになって助かったり、昔からある水路を使って、大水が川のほうに流れていくシステムというのがまだ生き残っている水路とかもあるので、そういうのも忘れずに、多分20年以上も前から同じ課題だと思うんです、農業って。それはなぜかという、やっぱり高齢化していて、同じ考えの人が、ずっと同じ地位にいらっしゃったから、同じところしか目につかなかったのかなと思うんですよ。

逆に、やっぱり女性の目とか若い方の目で、新たな視点で、今変えるチャンスだと思うんです。私もこの席に座らせていただいた以上は、そういう新しい視点で農業を変えていきたいなと思っています。

ここに「美しい自然景観」というのがあるんですけども、実は、年配の方というのは、景観っていうのがちょっとよく分かってらっしゃらない。農業する上で、きれいに田んぼをつくるんだとか、いい作物を作るんだというのが、景観につながるというのがどうしても、それとか森林の下の草をきちんと切ってきてきれいにするというのが、景観というのが結びつかない方が多いような気がするんですよ。

だから、外部の方から刺激を受けて、こういうのが、自然、景観で人が気持ちがいいねって思うんだよというのを、周りが外から言っていて、それが50%聞ければいいかなと思うんですけど、そういうのもちょっと指摘していただきたいと思います。

若い方が、新規就農で毎年10人近くいらっしゃるんですけども、続かない。理由を調べてみると、資金の面、それと技術。やっぱり技術というのは、毎年30年やっても失敗することもあるし、それを5年、10年で結果を出せというのはやっぱりすごく酷なことだと思うんですよ。

そういうのも長い目で見て、あと、今は半農半Xという言葉がありますが、そういうのも福岡市だったら都市型農業でできると思うんですよ。だから、そういうのをバックアップしていただきたいなと思うし、ここの中のどこかに文言を書いていただきたいと思います。

以上です。

○坂井部会長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。委員どうぞ。

○委員 よろしくをお願いします。

私のほうからは、専門でもあるデジタルの分野で、9ページに「最先端技術の活用の推進」というのが入っているんですけど、目標に落としたときに余りどこにも触れてないのかなというのがちょっと気になっておまして。具体的にどこに入れたほうがいいのかというのはあるんですけど、目標5の観光に関しても、外国人の方とかはスマホは持ってこられますし、デジタル媒体は持ってこられますので、例えばデジタル地図への反映みたいな、デジタルインフラの強化といったところをするだとか、あとほかの委員の方からの御意見もありましたように、スタートアップなんかは、最先端技術というのはすごく活用して、サービスはつくっていったるんですけど、そこに対しての反映というのが、なかなか既存企業との組合せタックみたいなことができていないのかなとは思っていますので、そういった取組みをすることでデジタル技術の活用というのが市民にも届くような形になるのではないかなと思った次第です。

ちょっと具体的にどこというのが言えないで申し訳ないですけど、私からは以上です。

○坂井部会長 ありがとうございます。委員、どうぞ。

○委員 よろしく申し上げます。

全体的にちょっと気になっているといいますか、やはり、今後の10年間でどうしようかという計画なので、博多と天神ばかりに言っていることが集中していやしいかなというのが1点気になったところなんです。

観光にしろ、起業にしろ、もちろん選ばれるのは天神、博多が多いんでしょうけど、前にも意見がありましたとおり、固定資産税の話とか、渋滞の話、環境の話、災害のことなど考えると、やはりそこにばかり集中し過ぎるのもいかなものかと。今後は、地方といえますか、郊外に企業も観光も人手も散らしていくという視点も多少必要なんじゃないかなと。私が西区の人間だから思うのかもしれないですけど、余りにも今のままでは地域間格差が大きいのではないかと。

この計画でいくと、何かそれが助長されてしまいやしいかという懸念がありますので、例えば、観光のところですけども、21ページのところ、ここはわざわざ「博多・福岡の歴史・文化を生かした観光振興」ってありますけれども、福岡市内、West Coastとか East Coastとかやって、自然を使った魅力ある観光資源をつくり出そうって言う中で、ここにわざわざ博多と福岡というふうに取り上げて、鴻臚館とか大濠公園で分かりますけれども、やはりもう少し地域のほうにも目を向けた視点が必要なのではないかということちょっと指摘させていただきたい。

それに加えて、観光について言えば、やはり地域との共存ということですね。オーバーツーリズムの問題なんかもありますので、来てくれ、来てくれと言うばかりじゃなくて、地域に散らした上で、地域とも共存していくという視点をちょっと取り入れていただければなという意見です。

○坂井部会長 ありがとうございます。委員どうぞ。

○委員 発言の機会をいただきましてありがとうございます。

今回まとめられた事務局案、大変よくまとまっていて、なかなか付加するところが難しいですけども、私ども経済団体として、特に関連がありますのが目標7の「地域経済の活性化」でございます。こちらでも非常にすばらしい切り口で、私どもの団体としても言いたいことが大体入ってるんですけども、あるとしましたら、ヒト・モノ・情報・カネという経済のフローの切り口で考えますと、人と物のゲートウェイとか、あるいは人の交流都市というところは非常にいっぱい入っているんですが、残り二つのフローであります情報産業とか、あるいはカネ、この辺りをどう考えるかというところがあるのかなと。

その情報の場合は、例えばですが、データセンターとか、今後10年を考えますと、恐らくかなり投資が広がると思っております。したがって、先ほど他の委員がおっしゃい

ましたけれども、情報産業をどう福岡市に今後、社会実装していくのかというところがあるのかなど。

もう一つカネのほうですが、国際金融機能都市ということもございまして、私ども、九経連が2022年9月にESG投融資方針というものを出示しております。要は投資の力で地域経済を変えようというコンセプトで、いわゆるESG投資を、これは九州の地銀全部で合意したもので、これもぜひ福岡市と連携して投融資、それは公共投資も含めて、民間投資も含めて、あらゆる投資をESG化していくというところを、今後10年進めるんだというコンセプトでつくっております。

そういう意味ではカネというふうに狭く捉えるよりも、地域全体で新しい投資をどうやっていくのかというところを、この7-5みたいなところに書き込めると、この10年のトピックス、国の政策とも絡んでよろしいのではないかと思いました。

以上でございまして。

○坂井部会長 ありがとうございます。委員、お願いします。

○委員 一言意見を申し上げさせていただきたいと思っております。

先ほどからスタートアップと中小企業とのマッチングであったり、あるいは地元の企業さんと大学生、学生さんとのコラボであったりといったような意見がたくさん出てまいったと思います。

そういった御意見に私も大変賛同いたします。

スタートアップと中小企業、それから若い力と地元の企業とのコラボというのは、やっぱりイノベーションには不可欠でありますし、お互いにとって非常に大事な刺激を生み出すのかなと思っています。

こうしたことが、やっぱり世代間の交流であったり、そういうものを踏まえて新しい力が勇気を持っていくとか、地元の企業が新しい発想を得て、あるいは若い方、学生さんたちの発想を得て、次の第2創業であったり、新しい取組みにつながって行って、それを若い人が見ながら、ああ、やっぱりこの地で働きたいねとか、この地で頑張っていきたいなと思っていただけるといいのかなと思っています。

そういう意味では、24ページ、25ページのところですけれども、例えば「めざす姿」の24ページの(1)の2ポツですかね、「スタートアップが互いに交流しながら成長し、」とあるんですけど、文言の工夫として、スタートアップや、その地元の企業、あるいは学生さんとか、そういう要素を入れていただけるとうれしいのかなと思いますし、25ページのところ、私自身の反省を込めて言うと、今スタートアップで若い力と既存の地元の企業さんとのコミュニティが比較的分かれているんじゃないかという疑問点と、自分たちも、もう少しそこは頑張らないといけないなと思っている面がありますので、そういうコミュニティは、学生さんと地元であったり、それからスタートアップと既存の企業であったり、

そういうところがどんどんコラボできるような、そういうことを促すような施策が打てる
といいのかなと日々感じておりますし、福岡市には本当にすばらしい土壌があると思って
期待しております。

以上でございます。

○坂井部会長 ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。大体いいところまで来まし
たが、委員どうぞ。

○委員 まず1点目ですけれども、先ほど戸建住宅の再生というお話がありましたけれども、
この手の話は、この目標8までの中でどこに入れるのか、こう見たときに、ちょっと見当
たらないう感じでしたよね。

私たちの部会は目標5からですけれども、こちらは都市の成長の部分なので、なかなか
入らなくて、そして前半目標1から読んでみると、入るとすると目標の3なのかなという
気もするんですけど、いずれにしても、どこかにやっぱりそういう課題は入れておかない
といけないんじゃないかなというふうに思いました。

それで、戸建住宅の再生という御指摘をいただきましたけれども、戸建住宅に限らず、
団地の再生だとか、あるいは向こう10年を考えると、マンションの老朽化で建て替えの
問題がかなり顕在化してくると思うんですね。そうすると、いかに建て替えしやすい環境
を整えるかということも重要な課題だろうというふうに思いますので、その辺も含めて、
老朽化した住宅の課題への対応をどこかに入れるべきじゃないかなと思いました。

それともう1点ですけれども、交通のほうでございまして、読み込めばというか、書い
てはいるんですけども、ちょっと書きぶりが弱いなというところでちょっと御指摘をさ
せていただきたいと思います。

交通に関しては23ページのところに公共交通を主軸とした総合交通体系の構築というふ
うにあるんですが、今、公共交通の中で一番大きな課題になっているのが運転手不足でご
ざいまして、以前であれば、西鉄バス、それから地下鉄などが、かなり競合するような形
で路線を組まれていたと思うんですけれども、それが今バスの運転手が足りなくて、やむ
なく途中で切らなくちゃいけないということで、自然発生的というか、そういう状況が
あって、初めて今、鉄道とバスが連携し始めているという状況ですけれども、今後、持続
可能性を考えたときに、このままだと、またさらに弱っていくような感じがしますので、
やはり鉄道を主軸としながら、バスをフィーダーとして活用するような大きな再編的な議
論も、すぐには難しいと思うんですけれども、議論を始めていけないと思いま
す。

そうしたときに、やっぱりこのフィーダーというのはもうからない部分ですので、やは
り全体で利益を分配するような交通連合のような議論をそろそろ始めておかないと間に合
わなくなるんじゃないかなと思いますので、その辺の書きぶりを少しにおわせるようなと

ころを入れておいたほうがいいのか、持続可能などという一言でもいいのかもしれないですけども、できればもう少し具体的なお話をさせていただければいいのじゃないかなというふうに思った次第です。

以上です。

○坂井部会長 ありがとうございます。あと何か御発言ございますでしょうか。よろしいですか。では、委員、お願いします。

○委員 私自身が橋梁やトンネルのインフラ構造物の点検調査をAIを使ったりして、DXしていくというベンチャー企業をしております、今からどんどん新しい施設ができたり、そういう形で造られていくと思うんですけども、一方、今まであった橋梁とかトンネルは老朽化が進んでいる中で、その点検方法とかもどんどん今IT化されているので、東京都などは、市民が参加して、アプリでお知らせしたりとかする一体化されてるようなメンテナンスの方法とかも取り入れられているので、そういったものを何かこう一部、点検方法もDXして、そこで税金を削減できるような形をちょっとでも出せたらありがたいかなと感じました。

以上です。ありがとうございます。

○坂井部会長 ありがとうございます。もうひとかた、オンラインでご参加の委員は今、ギニアビサウだそうですけども、ちょっと通信状況がよくないですかね。では、委員すみません、次回またお願いいたします。

今までのところで、石丸副部会長から。

○石丸副部会長 ありがとうございます。

皆さんの御意見もちょっと簡単にまとめたいと思いつつ、私からも意見を申し上げさせていたいただきたいですが、先ほども御意見が出たと思うんですけども、この地域、福岡市内の各地域拠点というところがあると思うんですけども、都心が今、機能更新がどんどん進んでいますけれども、それ以外のエリア地域も含めた、要は多面的、多様な地域づくりみたいなところをそろそろ取りかかっていくタイミングではないかなというふうに思っています。

福岡市内の経済状況というか、経済構造が第三次産業とかあるんですけども、イノベーションな企業であったり、外資系企業であったり、そういったところを、例えば都心なんか誘導していく流れもあります、それを支えるような、例えば飲食店であったりとか、サービサー、そういった人たちの充実というものが、結果的にそういった人たちを呼び込んだり、企業活動を支えるような、そういった担い手にもなるし、当然、市民の方々がお住まいになっているような方も多、そういった領域だというふうに思います。

そういったものを市域全体で支えていき、かつ、その各地域拠点なりが多様化していくということが総体的な都市経済の向上につながるのではないかというふうに思っていますので、その辺りが1点です。

二つ目ですけれども、アクティブ・ラーニングという言葉がありました。リスキリングも別途入れていいと思うんですけれども、リカレント的な要素というものをもう少し顕在化させてもいいのかなと。恐らくその生活の質の部分で、高等教育へのアクセスみたいなところは入っていると思うんですけれども、もう少し産業政策的な視点からも、人材の流動性というのをより高めていって、様々な働き先をつくっていく、機会をつくっていく。で、全体的な生産性の向上などにつなげていくような、そういったエコシステム的な構造というものをつくっていく上で、人材育成、それから人材の確保というのが大事だというふうに思います。

人材一つとっても育成だけではなくて、確保の視点も今、地域経済的には大変重要な論点でありまして、そういったところも必要に応じて触れてもいいのかなということをおっしゃっております。

それから、三点目に環境です。持続可能性の観点で、これも生活の質の部分に入っているんですが、先ほど、グローバルの視点もという御意見もありましたけれども、産業としての環境という側面も大変重要な領域だろうと思います。そういった意味で、ここにどう向き合っていくのかという、福岡市としての姿勢みたいなものも示していければいいのかなと思ったところです。

四つ目に、これは後ほどまとめるなどところにも関わってくるんですけれども、例えばデジタルの話がありましたが、いわゆる共通的な要素、機能としての、例えばデジタルという意味と、デジタルの産業、情報、知識創造型の産業というものを振興していくというのでは意味が全然変わってくるというふうに思うんですね。

そういった意味で、機能の部分、恐らく生活の質も含めたところに通底するようなどころ、先ほど委員からも全体に関わるなどところ、共通的なところというお話もありましたけれども、そういったものというものと、もう少し場合によっては書き分けるというか、そういったことの中で、よりスタートアップなり、知識創造型の産業をよりやっていくのだとか、これは環境もそうですけれども、人材育成なんかもそうだと思いますが、少しその共通的なところと強化していくようなどところというのは、整理できればいいなと思いました。

以上が私の意見でございまして、今日様々な御意見を委員からいただきまして、幾つかポイントがあったなというふうに思っていますのが、全体的に、従来というか過去10年の継続的なふうに見える、それはある意味ではうまくいってるような部分というものを継続していくという側面があるんだと思うんですが、一方で、次の10年を見据えていく上では、もう少し新しい要素であるとか、より課題として注力すべきポイントというものを顕在化させて示していくべきではないかといったような意見があったと思います。

それから、二点目に今私も申し上げたところですけども、やはりこういう時代もあるんですけども、より様々な分野が多面的に、共通していたり、連携していたり、関わり合っていて、そういったものが、どうしても構造上、縦割りの書きぶりになってしまうところもどうしても難しいところがあると思うんですが、そういった分野横断、それから、その間に必要なものというものをもっともって顕在化させていくようなところが必要ではないかといったような意見ですとか、あと、特にやるべきことというものをもう少ししっかりと書いていく、日頃からやらなきゃいけないことと、特にやるべきことっていうのは書き分けるべきじゃないかといったような意見もあったというふうに思います。

それから、こうするというのを施策として当然書くわけですが、それに至るまちづくりの仕組みといいますか、市民の関わり方であったり、まちのつくり方、政策の進め方ということにも関連するかもしれないですが、そういう仕組み、やり方の部分というものももう少し明らかにすべきではないかといったような意見があったかと思います。

それからグローバル、生きがい、海外などをはじめとするような動きというものをしっかりと踏まえていくということが必要だということと、逆に福岡市の特徴、特性みたいなものも、もう少し踏まえた上でということで、両面あるというふうに思うんですが、そういったところを踏まえた上で考えていくべきじゃないかということが話に出たかなと思っております。

それから、最後になりますが、例えば交通の話、大変分かりやすかったんですが、交通の課題といったときに、ここここが繋がっていないから課題だという話と、そもそもそれを成り立たせるための課題というので、全然論点が違うと思うんですよね。つまり、因果関係というか、やれたらいいんだけど、やれないっていう話と、やらないという話は全然意味が違うということがあると思っていまして、そういった意味では、できないなら、できない理由が、それこそ様々な理由があって、そこに課題が見えてくるようなところもあるというふうに思いますので、何かその辺り、これは全体的に大きな話をしているので、細かな施策のところをどこまで書き込むかというのは事務局としておありになると思うんですけども、上位概念としてこういう方向性を示していく、そういう施策の方向性を示すという意味では、そういったところも、ある意味しっかりと分かるようにしていかないと、これを見た市民の方々というのが、どういう因果関係で今こうなっているのかということが見えにくいところがあると思いますので、意識をぜひしていただければなど、皆さんの御意見を踏まえながら、全体の話になりますけれども、そのようなことを思いましたので申し上げさせていただきます。

以上です。

○坂井部会長 ありがとうございます。

この際、言い忘れていたというのはありますか。どうぞ、委員。

○委員 福岡市が人口維持、または微増という環境に恵まれているのは、御承知のとおり、他県からの流入に支えられているというところも大きくあるわけです。

福岡市の九州における存在というのは大変大きくて、福岡市も九州に応援してもらっていますし、九州にとっても福岡市は交通の玄関口とか、教育の環境とか、欠かざるべき玄関都市というふうに言えるわけです。そういった都市としての格、人格とも言えますけれども、都市格というようなものが福岡市には備わっていて、さらにそれを高く掲げて、高みに登っていき、そうして九州に貢献できる都市を目指そう、という役割を背負っている都市のように私はいつも思っております。

これをここの中に書くのは非常に難しいですけれども、通奏低音のように九州を支えていく福岡だと、そして九州に支えられている福岡だというところをどこかに何か共通のようなマインドとして書き切れないかなというふうに思いました。

○坂井部会長 ありがとうございます。

○委員 今後の進め方をちょっとお尋ねしておきたいんですけど、こういう意見を言う場所、また次何か新たな修正みたいのが出て、もう1回部会があるのかなというふうな、そんなイメージなのかなというのがちょっと。要は、それで、今日、また何かもう少し申し上げなきゃいけないかどうかちょっと考えたいなど。

○坂井部会長 そうですね、今日はちょっと言いつ放しでみんな終わっているような印象ですけど、ちょっと事務局から説明いただきましょうか。

○事務局（染井） 承知しました。

今後の当面の進め方でございますけれども、8月に総会を開催しまして、そこで一旦原案という形を目指したいと思っておりますが、それまでの間に6月、7月と、あと2回は少なくとも部会を開催させていただきたいと思っております、そこで、まずは次回6月ないし7月の初めぐらいだと思っておりますけれども、その頃に開催する次の部会で、今日いただいた御意見をどのように反映したかというところを皆様に御説明させていただきまして、またそこで、御意見いただいて、その次の部会でということをおと2回少なくともさせていただきますと思っております。

以上でございます。

○坂井部会長 よろしいですか。今日はもう皆さん、意見を言っていましたので、これは事務局のほうで一人お一人の御意見をしっかりとんでいただくというようなことで返していただけるようです。よろしいでしょうかね。

ほかにございますか。

〔「なし」の声あり〕

ありがとうございます。

そうしましたら、今日は様々な御意見をいただいたわけで、いろんなアイテムの話と、それから場所の具体的なお話までいただきました。事務局のほうでしっかりこれを吸収するというところでございます。

いろんなまちのつくり方、進め方を含めまして、仕組みをどうやって入れていくかという話もございますし、新しい取組みですね、次、これから10年何を、この都市は何で食っていくかという、都市格というお話もございましたけれども、どこを目指すのかっていうのをしっかり見据えられるような議論がこれから、今日いただきましたお話をもとにできればと思いますので、よろしく申し上げます。

それでは今日のところは、この辺りでと思いますが、事務局から全体を通して補足がありましたらお願いいたします。よろしいですか。

それでは事務局で本日の皆様の御意見を踏まえて、次回に向けて検討を進めていただきたいというふうに思います。

以上をもちまして、本日の議題については終了させていただきます。

進行を事務局へお返しいたします。

4 閉会

○事務局（高橋） 坂井部会長、石丸副部会長ありがとうございます。

以上をもちまして、福岡市総合計画審議会「都市の成長部会」を閉会いたします。

次回の開催日時を御連絡いたします。

次回、都市の成長部会は、御案内しておりましたとおり7月1日月曜日15時からを予定しています。

なお、本日の資料につきましては、机上にそのまま置いていただければ、事務局でファイルに綴じ込み、次回の部会で御用意いたします。

資料を持ち帰られる場合、また資料の郵送を御希望される方は近くの職員にお声かけください。

それでは、お忘れ物のないようお気をつけてお帰りください。

本日は誠にありがとうございました。

閉 会